

お問合せ先  
OBARA GROUP株式会社  
〒242-0007 神奈川県大和市中央林間3-2-10  
TEL. 046-271-2124

適切に選別された森林からの原料を含むFSC®認証紙と環境に配慮した植物油インキを使用  
して造ります。



[www.obara-g.com](http://www.obara-g.com)

# OBARA-G REPORT

## 第55期 第2 四半期報告書

2012年10月1日………2013年3月31日

証券コード 6877

## 株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。OBARA GROUPの2013年第2四半期連結累計期間(2012年10月1日から2013年3月31日まで)における事業の概況等をご報告致します。



第2四半期連結累計期間における世界経済は、米国における個人消費・生産活動の改善が見られたものの、中国・インドを始めとする新興国の経済成長の鈍化や欧州地域の不透明な景況感の継続などから、全体として弱含みで推移しました。

我が国経済につきましては、依然として楽観できない状況が続いたものの、個人消費が底堅さを見せたほか、輸出型産業の業績向上や株式市場の活性化など、明るい兆しが見られました。

そのような外部環境の中、溶接機器関連事業が自動車メーカーの活発な生産活動や設備投資による需要拡大への対応を継続的に展開したこと、平面研磨装置関連事業がエレクトロニクス業界の需給調整の中、顧客ニーズの発掘と迅速対応に注力したことなどにより、当社の業績は、前年同期を大幅に上回る結果となりました。

なお、2013年度の第2四半期末配当金につきましては、1株につき10円とし、本年6月11日を支払開始日とさせていただきます。

今後も不透明な経済環境が予想されますが、当社と致しましては、引き続き時代を先取りする技術開発を続け、各ローカル市場に最適の製品・サービスを丁寧に提供することによって、グローバル競争力の一層の強化を図る所存であります。

株主の皆様におかれましては、OBARA GROUPへの倍旧のご支援を心よりお願い申し上げます。

2013年6月

取締役社長 小原 康嗣

目次	株主の皆様へ ▶ 01	セグメント別事業概況 ▶ 05	トピックス ▶ 09	連結財務データ ▶ 13	株式情報 ▶ 17
	営業の概況 ▶ 03	地域別の概況 ▶ 07	主要経営指標の推移 ▶ 11	会社情報 ▶ 16	株主メモ ▶ 18

## 営業の概況

### 連結業績サマリー

(百万円)

	実績			通期の見通し	
	前第2四半期累計	当第2四半期累計	前年同期比	前期末(実績)	当期末(予想)
売上高	15,290	18,106	18.4%	32,259	36,900
営業利益	1,898	3,121	64.4%	4,469	6,200
経常利益	2,132	3,874	81.7%	4,604	7,100
四半期(当期)純利益	1,155	2,326	101.3%	2,718	4,700
1株当たり配当金	10(円)	10(円)	—	30円(年間)	20円(年間)

03

### 第2四半期連結累計期間の概況について

溶接機器関連事業と深く関わる自動車業界では、前期に続き、アジア地域での自動車需要の拡大を背景として設備の増強と生産活動に活発な動きが見られました。一方、平面研磨装置関連事業と深く関わるエレクトロニクス業界では、エレクトロニクス製品の総体的な販売軟調を受け、設備投資及び生産活動は、落ち着いた状況が続きました。

しかしながら、当社グループは、このような経営環境において各市場動向に応じた拡販に努めたことなどにより、両事業ともアジア地域での活動が好調に推移しました。この結果、第2四半期連結累計期間の業績は、前年同期に比べ大幅な増収増益となりました。

### 通期の見通しについて

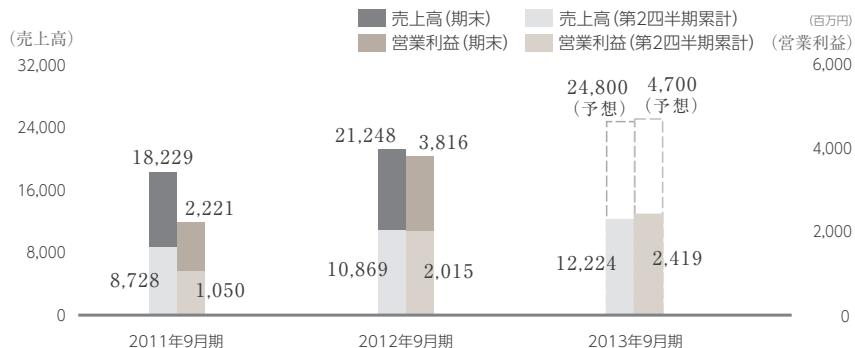
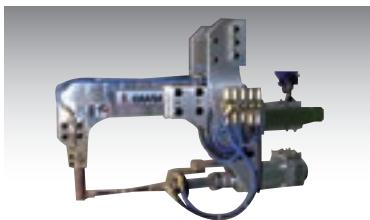
第2四半期連結累計期間の業績及び足元の需要環境を踏まえて、2013年4月26日に連結業績予想を上方修正しました。

溶接機器関連事業及び平面研磨装置関連事業において、日本を含むアジア地域の業績が順調に推移する見込みであることなどから、売上高369億円(前期比14.4%増)、営業利益62億円(前期比38.7%増)、経常利益71億円(前期比54.2%増)、当期純利益47億円(前期比72.9%増)を予定しております。なお、当連結業績予想は、1米ドル=91円の為替レートを前提としています。

04

## セグメント別事業概況

### 溶接機器関連事業

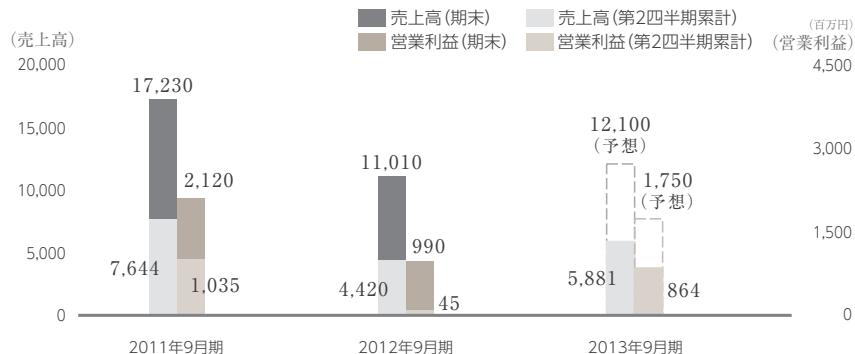


(注)：売上高については、外部顧客に対する売上高を記載しております。

溶接機器関連事業につきましては、取引先である日系・欧米系・アジア系自動車メーカーにおいて、アジア地域などで積極的な増産投資が行われ、世界各地の自動車生産は高水準となりました。このような環境の下、当事業として設備品の需要拡大への対応並びに消耗品の拡販に努めたことなどにより、業績は好調に推移しました。

この結果、当事業の売上高は122億24百万円(前年同期比12.5%増)となり、営業利益は24億19百万円(前年同期比20.0%増)となりました。

### 平面研磨装置関連事業

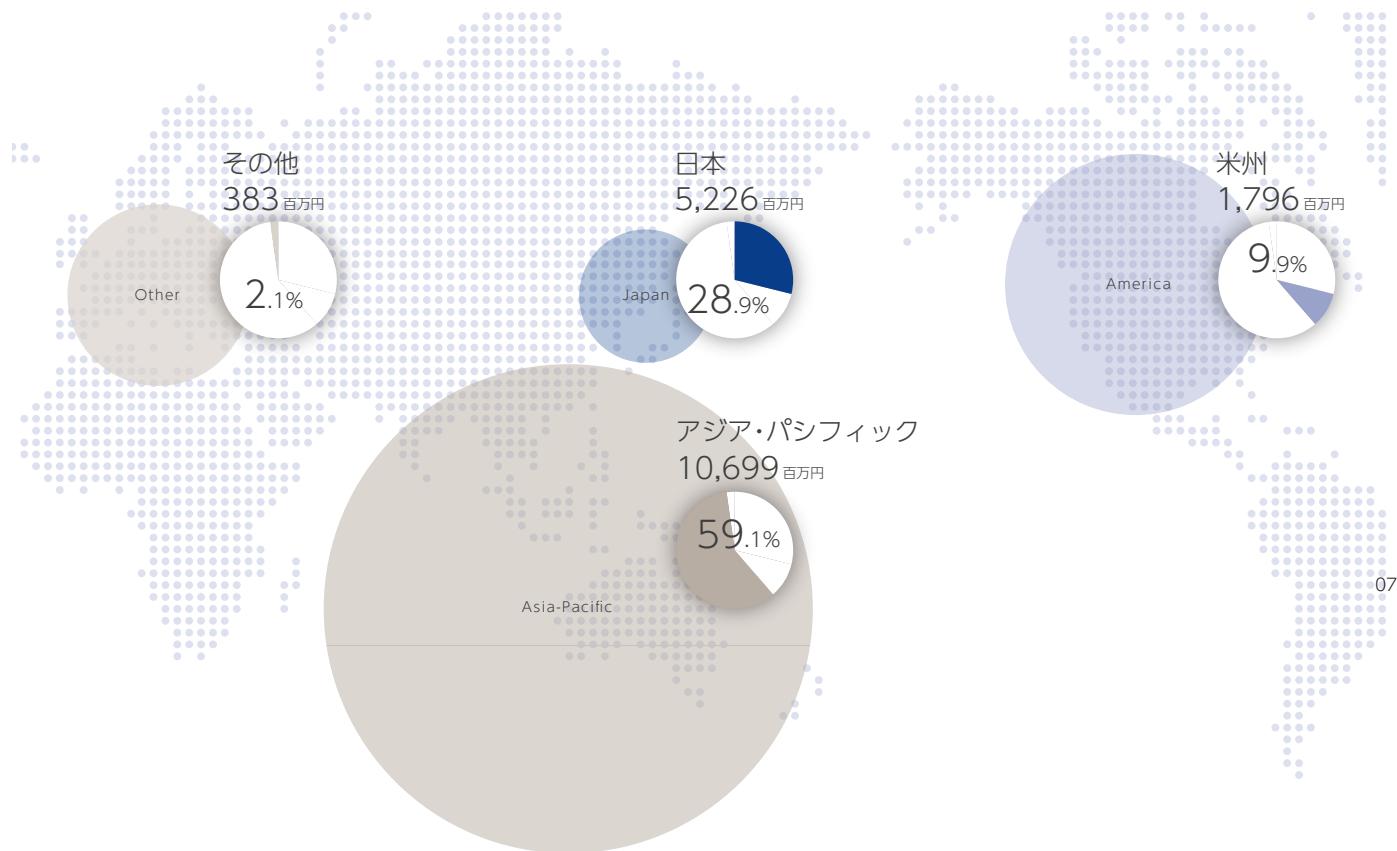


(注)：売上高については、外部顧客に対する売上高を記載しております。

平面研磨装置関連事業につきましては、パソコンなど主要エレクトロニクス製品の販売軟調を受け、当事業の取引先であるシリコンウエーハなどのエレクトロニクス関連素材において、設備投資及び生産活動は落ち着いた状況となりました。このような環境の下、当事業として顧客要求に適合した販売深耕を各業界へ図ったことなどにより、業績は好調に推移しました。

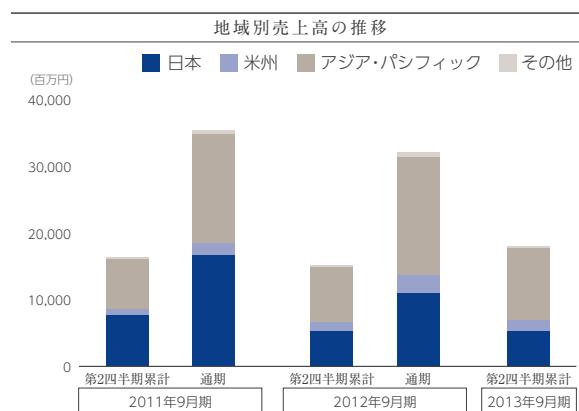
この結果、当事業の売上高は58億81百万円(前年同期比33.0%増)、営業利益は8億64百万円(前年同期は45百万円の営業利益)となりました。

## 地域別の概況



第2四半期連結累計期間の地域別売上高は、国内が前年同期を下回る結果となりましたが、それ以外の地域は、前年同期と比べ伸長しました。

国内は、溶接機器関連事業が前年同期比で若干の減収となったことにより、売上高は52億26百万円(前年同期比2.1%減)となりました。一方、海外については、アジア・パシフィック及び米州では、溶接機器関連事業が好調だったことから、売上高はそれぞれ106億99百万円(前年同期比29.8%増)、17億96百万円(前年同期比34.5%増)となりました。その他地域の売上高は3億83百万円(前年同期比2.8%増)となりました。



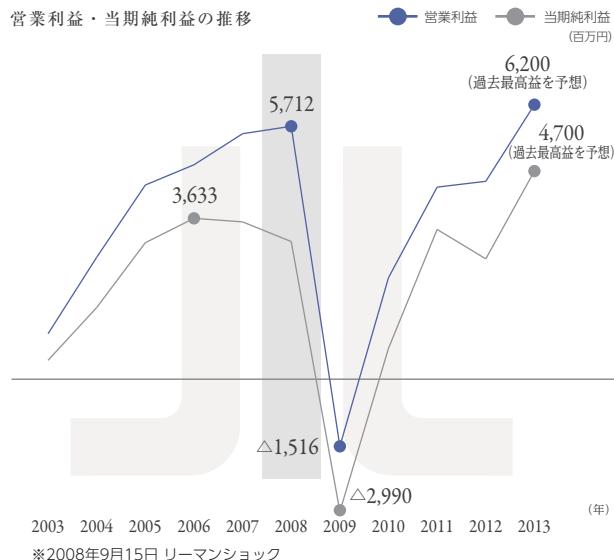
## 業績トピックス

### 2013年9月期 連結業績予想/当期純利益、過去最高益へ

当社は、2013年4月26日に当期の連結業績予想を上方修正しました。これに伴い、当期純利益は、2006年9月期の3,633百万円を上回る4,700百万円の過去最高益を予想しています。

リーマンショック以降、世界経済は混沌とするとともに、当社グループと深く関わる自動車及びエレクトロニクス業界もビジネス環境が激変しました。当社グループは、この様な状況にあって、成長地域それぞれの要求仕様に対し、現地に根ざした技術・製造・販売体制を整備し、お客様視点のサポートを徹底してきました。当社としましては、多様化と高度化を続ける先端ニーズに対して、ひとつひとつ丁寧に応え続けることにより、更なる業績向上を目指します。

営業利益・当期純利益の推移



## 事業トピックス

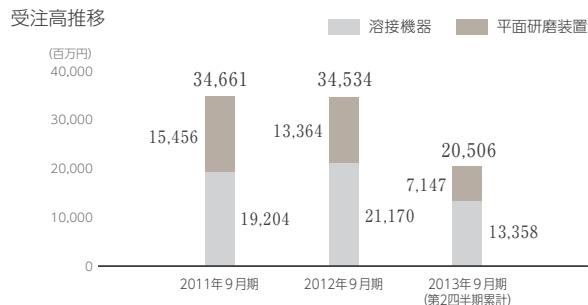
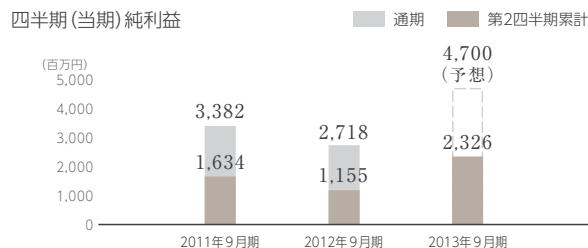
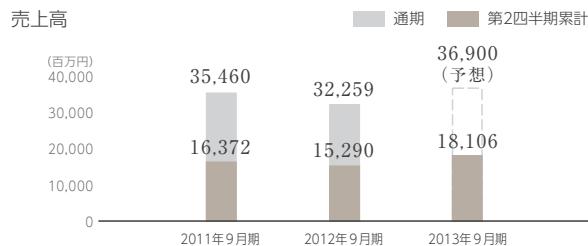
### 平面研磨装置関連事業/SEMICON JAPANに出展

2012年12月、幕張メッセで開催された半導体製造装置・材料の国際展示会「セミコン・ジャパン2012」において、当社は、今日のシリコンウェーハ平坦化に求められる生産性・品質ニーズに応える、各種研磨装置・消耗副資材の総合ソリューションを提案しました。また、広範なエレクトロニクス素材を高速に精密研磨する、最新鋭の片面研磨装置50GPAWなどを紹介するとともに、当社の装置シリーズを組み合わせた効果的な製造プロセスについてのプレゼンテーションも併せて行い、国内外から注目を集めました。

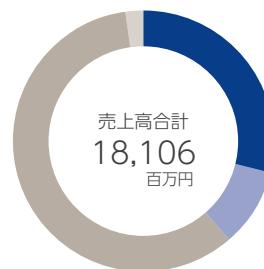


SEMICON JAPAN

## 主要経営指標の推移



## 地域別売上高構成比

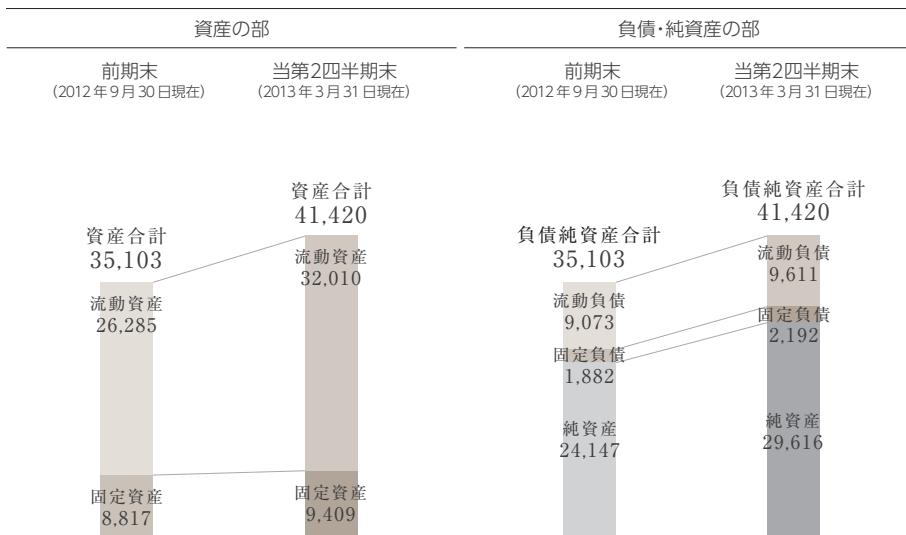


(注) 売上高については、外部顧客に対する売上高を記載しております。

## 連結財務データ

### 資産・負債・純資産の状況

(単位：百万円)



### point 1 資産負債

point 1

総資産は414億20百万円と、前期末と比べて63億17百万円増加しました。現金及び預金が25億5百万円、受取手形及び売掛金が24億26百万円増加したことなどによります。負債は、118億3百万円と、前期末に比べて8億48百万円増加しました。短期借入金が4億87百万円減少した一方で、支払手形及び買掛金が1億35百万円、未払法人税等が4億85百万円、その他流動負債が6億13百万円増加したことなどによります。

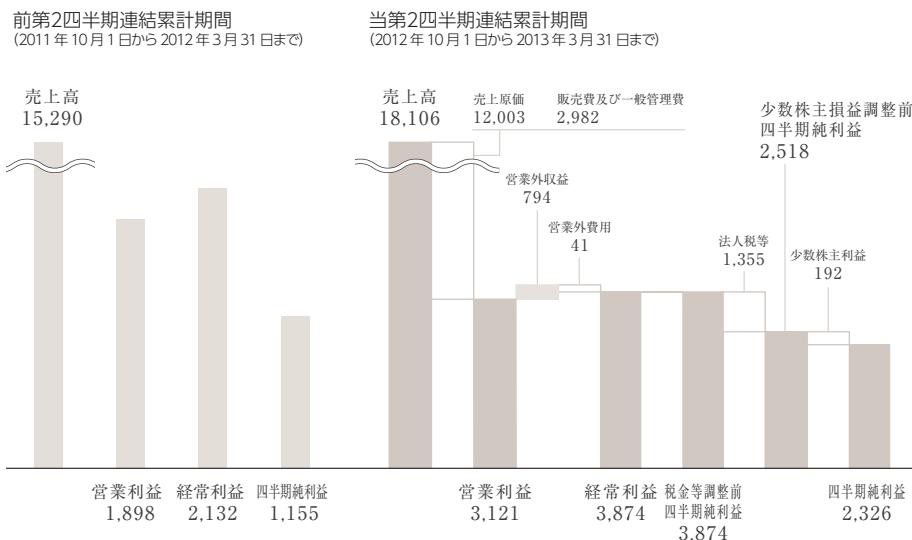
### point 2 純資産

point 2

純資産は296億16百万円と、前期末に比べて54億68百万円増加しました。利益剰余金が19億37百万円、円安により為替換算調整勘定が30億68百万円、少数株主持分が3億11百万円増加したことなどによります。

### 損益の状況

(単位：百万円)



### point 3 売上高・営業利益・経常利益・四半期純利益

point 3

連結売上高181億6百万円(前年同期比18.4%増)、営業利益31億21百万円(前年同期比64.4%増)、経常利益38億74百万円(前年同期比81.7%増)、四半期純利益は、23億26百万円(前年同期比101.3%増)となりました。

### point 4 営業外収支

point 4

受取利息68百万円、為替差益5億87百万円と営業外収益が7億94百万円となった一方、支払利息22百万円など、営業外費用が41百万円となりました。

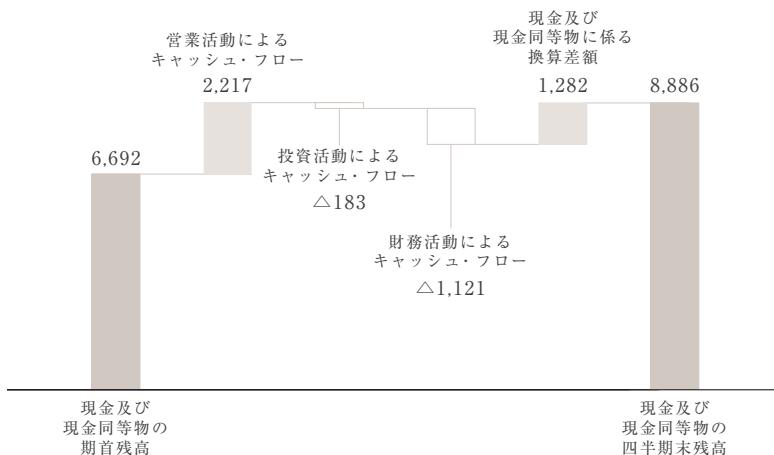
## 連結財務データ

### キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間

(2012年10月1日から2013年3月31日まで)

(単位：百万円)



point  
5

### 営業活動による キャッシュ・フロー

営業活動により得られたキャッシュ・フローは、22億17百万円となりました。税金等調整前四半期純利益が38億74百万円、減価償却費及びその他の償却費が2億69百万円などとなった一方、売上債権の増加額が7億51百万円、仕入債務の減少額が4億16百万円、法人税等の支払額が6億32百万円発生したことなどによります。

point  
6

### 投資活動による キャッシュ・フロー

投資活動により支出したキャッシュ・フローは1億83百万円となりました。投資有価証券の売却等による収入が28百万円となった一方、定期預金の純増加額が69百万円、有形固定資産の取得による支出が1億58百万円発生したことなどによります。

point  
7

### 財務活動による キャッシュ・フロー

財務活動により支出したキャッシュ・フローは11億21百万円となりました。短期借入金の純減少額が7億19百万円、配当金の支払額が3億88百万円発生したことなどによります。

## 会社情報

(2013年3月31日現在)

### 会社概要

商号	OBARA GROUP 株式会社
設立	1958年12月
資本金	1,925,949,120円
従業員数	23名(連結 1,666名)
本社所在地	神奈川県大和市中央林間 3-2-10 046-271-1111 (代表)
主な事業	持株会社として、グループ全体の経営戦略の策定・推進、グループ経営の監査、その他経営管理
ウェブサイト	<a href="http://www.obara-g.com/">http://www.obara-g.com/</a>

### 役員

取締役社長	小原 康 嗣
取締役	渡辺 俊 明
取締役	小林 憲 史
取締役	周 澤 健
常勤監査役	谷 内 博
社外監査役	大 西 倫 雄
社外監査役	村 松 建 夫

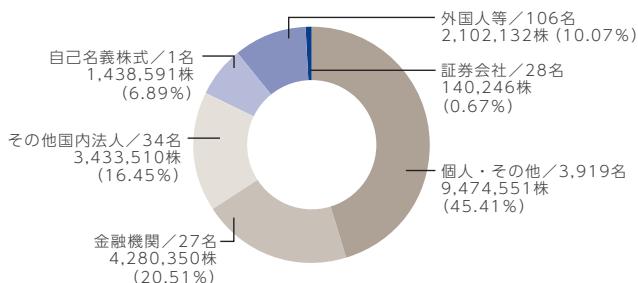
(注) 監査役のうち、大西倫雄及び村松建夫の両氏は、「会社法」第2条第16号に定める社外監査役であります。

## 株式情報 (2013年3月31日現在)

### 株式状況

発行可能株式総数	38,000,000株
発行済株式総数	20,869,380株
単元株式数	100株
株主数	4,115名

### 株主分布状況



### 大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
有限会社馬込興産	3,253	16.74
小原 博	2,263	11.65
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	1,065	5.48
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	939	4.83
NORTHERN TRUST CO. (AVFC)SUB A/C AMERICAN CLIENTS	706	3.63
小原 康嗣	611	3.14
株式会社三菱東京UFJ銀行	369	1.90
小原 範子	304	1.56
吉田 史子	218	1.12
OBARA GROUP従業員持株会	214	1.10

(注) 1. 上記のほか、自己株式1,438千株を保有しております。  
2. 持株比率は、自己株式1,438千株を控除して計算しております。

### 株主メモ

事業年度 毎年10月1日から翌年9月30日まで  
 定時株主総会 毎年12月  
 基準日 定時株主総会の議決権 毎年9月30日  
 期末配当 毎年9月30日  
 第2四半期末配当 毎年3月31日  
 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。

株主名簿管理人 〒100-8233  
 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
 三井住友信託銀行株式会社

特別口座の  
 口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
 三井住友信託銀行株式会社

同事務取扱所 〒168-0063  
 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
 三井住友信託銀行株式会社  
 証券代行部  
 TEL: 0120-782-031(フリーダイヤル)

同取次窓口 三井住友信託銀行株式会社 全国各支店

公告方法 当社公告につきましては、下記ウェブサイトに掲載いたします。  
<http://www.obara-g.com/>  
 但し、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告を行なうことができない場合は、日本経済新聞に公告を掲載いたします。